

各 位

会 社 名 株式会社カイオム・バイオサイエンス
代表者名 代表取締役社長 小池 正道
(コード：4583 東証グロース)

当社独自技術 DoppelLib™の技術的特徴と事業展開についての 国際カンファレンスにおける講演に関するお知らせ

このたび当社は、2026 年 10 月 19 日～21 日に京都で開催された国際カンファレンス「Antibody Engineering & Therapeutics Asia 2026」において、当社の独自技術「DoppelLib™」を活用した次世代抗体創薬に関する講演を行いましたので、お知らせいたします。

講演では、多重特異性抗体の開発において課題となる多数の抗体の組み合わせの探索について、従来の個別作製方式と DoppelLib™のプール方式を比較し、有望な組み合わせを効率的に探索するアプローチを紹介しました。従来法では、抗体の組み合わせごとに作製・評価を行う必要がありますが、DoppelLib™では、多数の抗体の組み合わせを簡便にかつ大規模に探索・選別することで、多重特異性抗体の効率的な探索が可能です。

また、抗 PD-L1 抗体を用いた初期的な研究事例や、三重特異性抗体などへの応用可能性について紹介するとともに、当社の IDD 型ビジネス（抗体創薬にかかるプラットフォーム型ビジネス）との連携による事業展開の方向性についても説明しました。講演内容の一部について、別紙にて図表とともにご紹介します。

講演概要

会 議 名：Antibody Engineering & Therapeutics Asia 2026

開 催 日：2026 年 10 月 19 日～21 日（講演日：10 月 20 日）

会 場：ウェスティン都ホテル京都（京都府京都市）

講 演 者：森 聖寿（当社研究本部長）

講演題目：Advancing Next-Generation Antibody Drug Discovery through Chiome' s DoppelLib™ Platform and Integrated Drug Discovery Partnerships

公式サイト：<https://informaconnect.com/antibody-engineering-therapeutics-asia/>

以 上

<DoppelLib™について>

DoppelLib™は、多数の抗体の組み合わせを効率的かつ網羅的に評価し、有望な多重特異性抗体候補を探索する独自のハイスループットスクリーニング技術です。膨大な抗体の組み合わせから有望な候補を効率的に見出すことで、多重特異性抗体の研究開発の効率化を実現します。

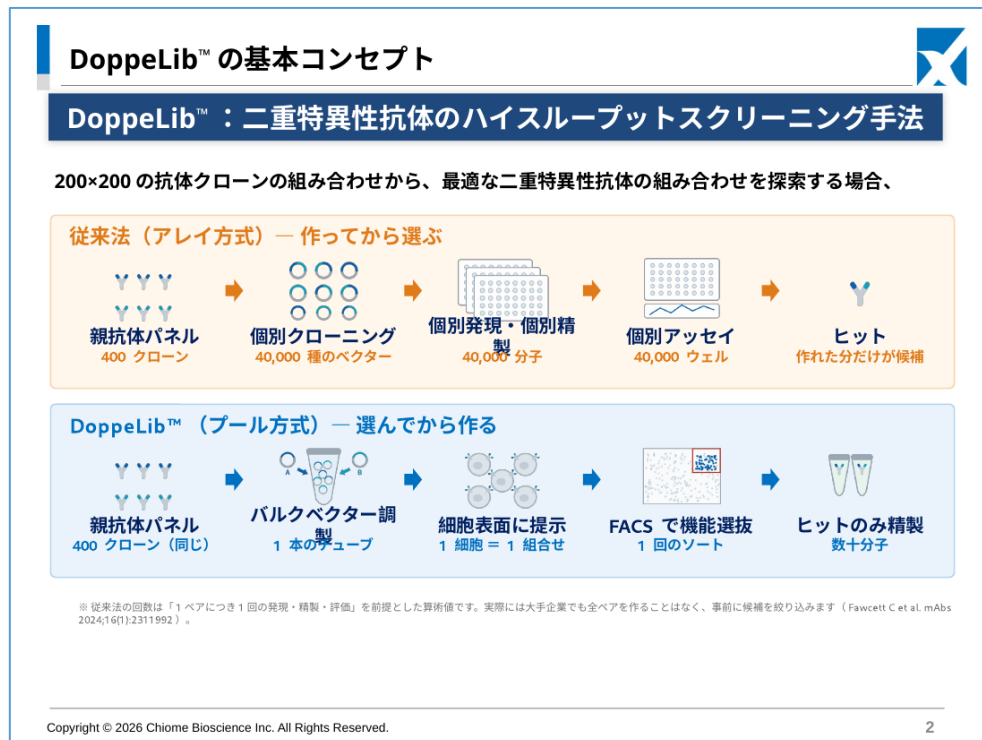
【本件に関する問い合わせ】

株式会社カイオム・バイオサイエンス IR 担当

電話：03-6383-3561

1. DoppelLib™の基本概念

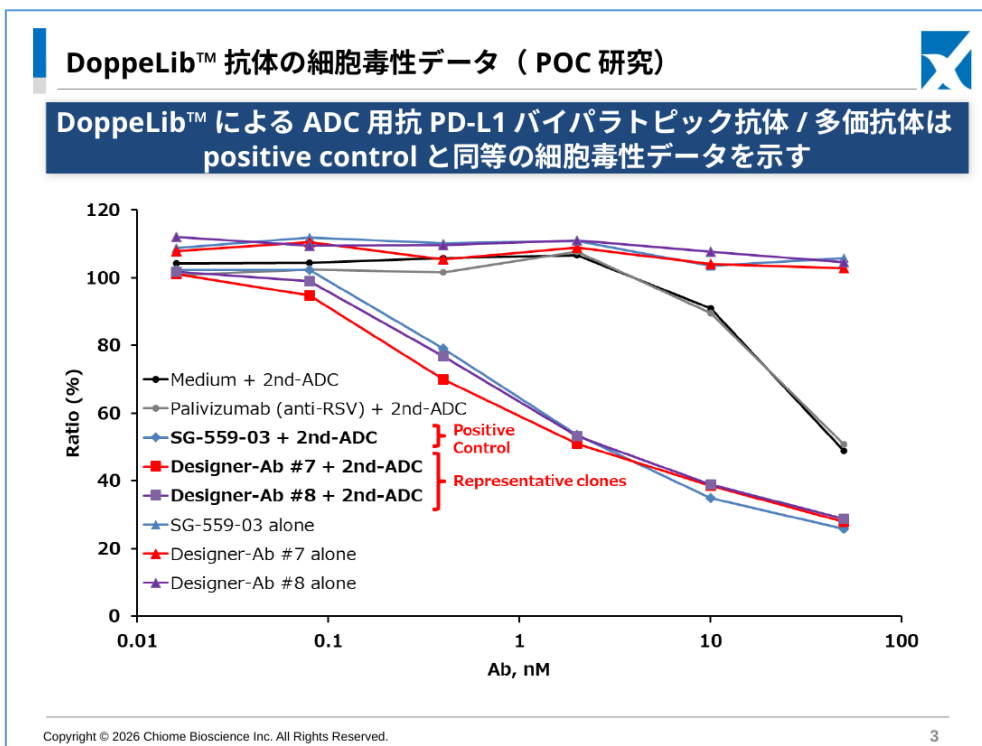
従来法では、抗体の組み合わせごとに作製・評価する工程が必要です。DoppelLib™は、プール方式で多数の組み合わせを簡便に調製し、有望な候補を大規模にかつ効率的に探索する技術です。



図：従来法（アレイ方式）と DoppelLib™（プール方式）の工程比較。

2. 抗 PD-L1 抗体を用いた概念実証（POC）研究

DoppelLib™を用いて得られた ADC 向け抗 PD-L1 バイパルトピック抗体について、細胞毒性に関する初期的な研究結果を紹介しました。提示データは特定の実験条件下で得られた研究段階の結果です。



図：抗 PD-L1 抗体の細胞毒性に関する試験データ。

＜バイパラトピック抗体について＞

同一の標的分子上の 2 つの異なるエピトープ(標的分子側にある抗体が結合する部分)に、それぞれ別のパラトープ(抗体側にある標的分子に結合する部分)で結合する二重特異性抗体の一種です。

3. IDD 型ビジネスとの連携による事業展開

DoppeLib™をはじめとする当社独自の抗体創薬技術を活用し、抗体候補の探索から創薬候補の創製に至るまで、幅広い創薬支援や共同研究への展開を目指す当社の IDD 型ビジネスについて紹介しました。

また、こうした事業展開の具体例として、2026 年 9 月に公表した株式会社 FRONTEO との共同研究についても説明しました。本共同研究では、FRONTEO の AI 技術による新規創薬標的の探索と、当社の DoppeLib™をはじめとする抗体創薬技術を組み合わせることで、新たな抗体医薬品候補の創製を目指しています。

当社は今後も、独自の抗体創薬技術を基盤として、外部パートナーとの連携を通じた創薬研究の推進と事業機会の拡大を図ってまいります。



図：FRONTEO 社の AI 技術と当社 DoppeLib™の連携イメージ。

今回の講演で紹介した主なポイント

- DoppeLib™の技術的特徴
従来法との比較を通じた、多数の抗体の組み合わせから有望な候補を効率的に探索する仕組み
- 研究事例と技術の応用可能性
抗 PD-L1 抗体を用いた初期的な検証結果や、三重特異性抗体などへの応用可能性
- IDD 型ビジネスとの連携による事業展開
DoppeLib™を含む当社の抗体創薬技術を活用した、創薬支援や共同研究の展開

※本別紙は、講演資料の一部を投資家向けに抜粋・再構成したものです。記載した研究データは特定の条件下で得られた結果であり、今後の研究開発成果や事業化を保証するものではありません。